

研究機関名：東北大学

受付番号： 2011-593
研究課題名 乳がん検診における費用効果分析：2重読影 vs. 1人+CAD読影
研究期間 西暦 2011年7月（倫理委員会承認後）～ 2013年7月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（診療情報）
上記材料の採取期間 西暦 2011年2月～ 2012年2月
意義、目的 乳がん検診におけるコンピュータ支援診断（Computer-aided detection: CAD）の導入は長期的な医師のマンパワー不足の解消と、難易度の高いマンモグラフィ読影を客観的にアシストするツールとして、有用であると考えられる。本研究は、検診から治療にいたるまで、乳がんにおけるトータルの費用を考慮した上で、生存年数を効果とし、現行の2重読影法と医師1名によるCAD併用読影を行った際の費用効果分析を Decision Tree を用いたモデルにより仮想比較分析を行う。
方法 分析モデルである Decision Tree（作成済み）へのデータ入力に当たって、公開統計データからえられなかった、検診後、外来受診時に発見された乳がんの病期分類、精密検査の感度・特異度、および検査・治療に関わる費用のデータベース化を行う。具体的な方法は、対がん協会において、対象年度内（1994年～2006年）の”乳腺調査票”から精密検査（針生検または吸引式針生検）の診断、病期分類を年齢階級別に連結可能匿名化し Microsoft Access を用いてデータベース化する（対がん協会倫理委員会申請中）。 <u>診断・治療の費用は大学病院乳腺内分泌外科のデータを基に医事データから計算するが、医事データの保存期間が一年間であるため、2011年2月から2012年2月の間に乳がんの診断・および治療のために受診した患者を対象とする。その際連結可能匿名化を行い、データは本学保健学科画像診断学分野研究室の専用HDDに保存し、パスワードによるセキュリティー管理を行う。それらのデータをモデルに入力し、Costs/Life Yearによる費用効果分析を行う。</u>
問い合わせ・苦情等の窓口 〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1 東北大学医学系研究科放射線技術科学専攻 画像診断学分野 石橋忠司 佐藤美帆 022-717-8683 meifan58@med.tohoku.ac.jp